

# Believe



- 院長就任のご挨拶
- 看護部長就任のご挨拶
- 世界最新の脳血管撮影装置の導入で脳血管内治療の効果・安全性のさらなる向上を目指して
- 地域医療連携室よりご案内  
(在宅医療バックアップシステムについて)



## 基本理念

病める人の権利と心情を重んじ信頼される医療を行います。

## 基本方針

- 安全で質の高い医療を提供します。
- 次世代の医療を担う人材の育成に努め、時代の変化に対応できる中核病院としての役割を果たします。
- 地域包括ケアシステムを推進する取組みを進め、地域の医療、保健、福祉の向上に貢献します。
- 患者さんに喜ばれ、誇りをもって働くことのできる病院づくりに努めます。

No. 1

2022.6

## 就任ご挨拶

2022（令和4）年4月1日付で高澤哲也前院長の後任として病院長に就任致しました田中 一でございます。当院は2006（平成18）年5月に海沿いの西有明町より、現在の新通南に新築移転し、早いものでもう16年が経ちました。新潟市医師会第1班よりお隣の第5班の一員に加えて頂き、この間多くの医療機関の皆様方に支えられ、ここまで来ることができましたこと、この紙面を借りて改めてお礼申し上げます。

少子高齢化+転出超過による急激な人口構造の変化に伴い、地域の医療ニーズも大きく変化しつつあり、加えて新潟県は全国で最も医師不足が深刻な県でもあります。また2024年4月には「医師働き方改革」が待ち構えており、この2年足らずの間に宿日直許可取得、客観的勤務時間把握、タスクシフト/シェア推進等による労働時間の短縮など課題は山積しております。

当院はこのような大転換期のなか、超急性期～急性期医療を中心とした高度専門的な医療を担う地域の中核病院として、また安全かつ先進的な血液浄化療法を担いうる全国有数の拠点医療機関として、医療の質を担保し続けるとともに、これまで通り超急性期から慢性期までワンストップの医療を提供できるよう尽力してまいり所存ですが、一方この地域で持続可能な医療機関としてあり続けるために、様々な試練に直面していることも認識しております。これまでも「新潟市在宅医療・介護連携ステーション西第二」や在宅医療ネットワーク「にしく赤・坂ネット」など介しまして、地域包括ケアシステムの一翼を担うべく努力して参りまし

たが、この点では十分であったのかと見直しを行っております。2022年3月新たな新潟県地域医療構想が策定されましたが、その柱の一つである「病床の機能分化・連携」をはかる上で、病診連携・病病連携などの医療連携は勿論、介護施設等との地域連携も重要と考えております。よりスムーズかつシームレスな連携ができるよう、人員やシステムの再構築・改善をはかり、円滑な情報交換・意思疎通をはかっていきたいと存じます。

外来血液浄化療法ベッド150床を有する入院病床数325、標榜科数23の中規模民間病院としての特徴を生かしながら、当院に対する地域や医療機関の皆様方のご要望・ご期待を的確にくみ取り、地域に愛され必要とされる医療機関として成長・発展できるよう、日々努力・研鑽・実行を積み重ねていきたいと存じます。これまで同様、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

2022年6月

信楽園病院 院長 田中 一



## 就任ご挨拶

登録医の先生方におかれましては、日頃より信楽園病院の病診連携事業にご協力いただき誠にありがとうございます。この度、米持妙子看護部長の後任として、看護部長を拝命いたしました長谷川昌恵です。

大役を仰せつかり、不安と緊張の日々を送っております。

さて当院は「病める人の権利を重んじ信頼される医療を提供する」という理念を掲げ、超急性期から急性期・慢性期・在宅まで一貫した医療を行う地域密着型の病院です。当院を受診される患者さんの多くは高齢で、生活習慣病を患っておられます。患者さんの療養の場は地域へ拡大し、在宅を含む暮らしの場で自分らしく生活ができ最期まで生を全うできるよう、患者さんの生活の見直しや改善が行えるよう院内外の多職種チームで支援していくことが重要であると考えています。

少子高齢化、人口減少など様々な社会的課題が想定されますが、どのような社会状況に変化しても看護には変わらず全ての世代の健康と療養を支えていくことが求められます。これまで入院医療中心であった療養の場は、地域住民の暮らしのより身近な場へと移り地域での安定した療養生活には医療機関はもとより、医療機関と在宅を繋ぐ外来医療が重要となると思います。当院の外来では、糖尿病看護外来、透析予防や脳神経内科外来における認知症患者さんを対象にした療養支援外来、がん化学療法外来、皮膚排泄ケア

外来など専門看護師、認定看護師に相談にできる体制を組んでおりますので、登録医の先生方にはいつでもご活用いただきたいと思っております。

看護師の教育については、優しさと思いやりを持ち患者さん、ご家族に寄り添えるような人間性豊かな看護師の育成に努めています。取り組みを通して少しずつでも看護の質の向上に向けて努力していきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染が残念ながら終息の兆しが見えません。しかしこの感染と対峙する中で、地域・各施設との連携が強化できたと感じるところもあります。今後もより一層連携を強化していけるよう努力してまいります。

最後になりましたが、先生方のますますのご健勝とご活躍をお祈りいたしますとともに、これからもご指導、ご協力のほどよろしくお願い致します。

信楽園病院看護部長 長谷川 昌恵



世界最新の脳血管撮影装置の導入で脳血管内治療の効果・安全性のさらなる向上を目指して

脳神経外科 伊藤 靖

当院に於いては2008年より、頭を切らないカテーテルを用いた脳外科手術である脳血管内治療を積極的に導入してきており、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、頸部内頸動脈狭窄、頭蓋内血管狭窄、急性期主幹動脈閉塞などの疾患を治療してきています。

これらの脳血管内治療にはX線を用いてDSA、3次元回転DSAなどの特殊な撮影が可能な高機能の血管撮影装置が必要です。当院の脳血管撮影装置は当初よりそれらの機能を満たしていましたが、2021年5月に世界最新の脳血管撮影装置（Siemens社製 Artis icono D-spin、以下 icono）が当院に導入されました（図1）。

図1



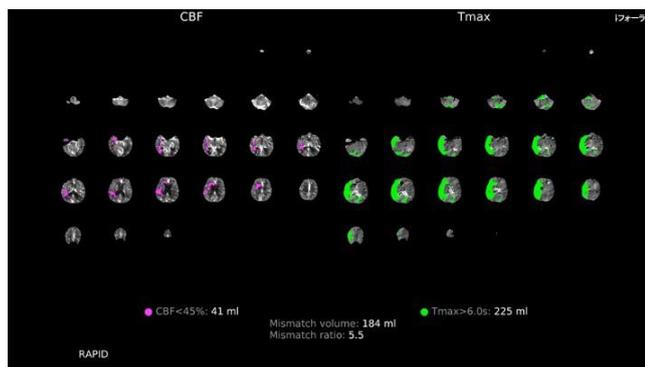
2021年5月に導入されたArtis iconoD-spin

2022年時点でも全国で20台程度しか導入されておらず、もちろん新潟県では当院にのみ導入されています。通常の血管撮影装置は1方向からの観察で、C-アームの位置を変更して色々な角度から撮影します。脳血管はその走行が複雑なため、多方向からの観察を必要とする事が多く、C-アームの位置を変更して色々な角度から撮影します。今回の新規装置 icono は2つのC-アームを持つバイプレーンシステムで、2方向から同時に観察・撮影が可能で、より正確な血管情報が得られるだけでなく、使用する造影剤量も1/2に減らすことができます。またC-アームを約180度回転させて撮影し立体像を得る3次元回転撮影では、従来のバイプレーンシステムではもう1方のC-アームを待避しないと回転撮影が出来なかったのですが、iconoでは2つのC-アームが同時に回転することで、そのタイムロスをなくし速やかな検査・治療に進めます。

近年その必要性がますます高くなっている急性期脳梗塞（脳主幹動脈閉塞）に対するカテーテルを用いた血栓回収術においては、当院では脳神経内科とも連携し24時間/365日施行できる体制を整備しており、一次脳卒中センターコア施設に委嘱されています。世界の主要な血栓

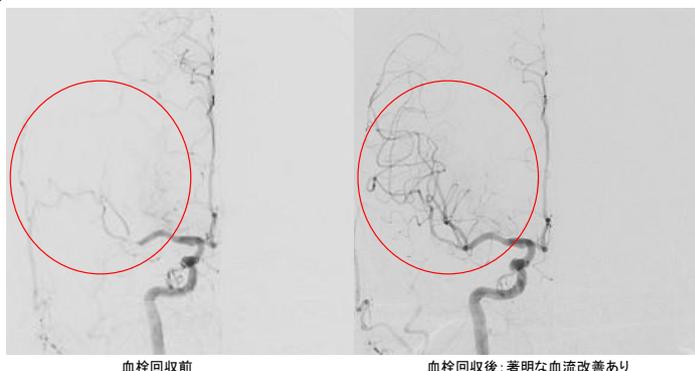
回収術の研究では、治療適応を決める上では、血管の閉塞や早期の脳梗塞変化のみでなく、脳血流の評価が行われています。今回の icono では C-アームを回転させることで通常の CT とほぼ同等の画像が撮影でき、引き続き造影剤を注入しつつ C-アームを 5 往復回転させて撮影することで、血流を評価できる脳灌流画像が得られます。

図2



RAPID画像: 脳灌流画像が5分で自動解析され、この患者さんの場合は血栓回収の適応ありと判断

図3

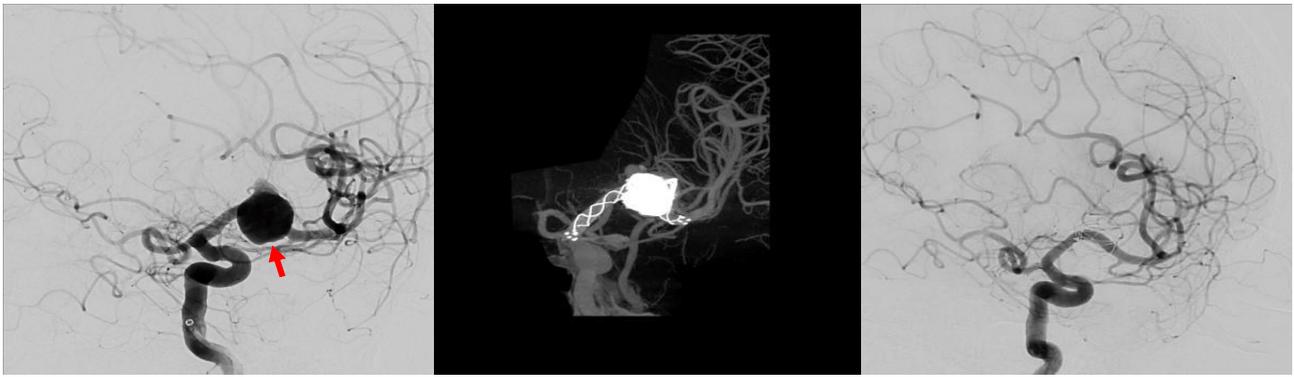


そのデータを世界の脳灌流画像計測ソフトのスタンダードである RAPID システム (新潟県内では当院のみで導入) で自動的に計算し約 5 分で血流の評価が完了します。これにより、どの患者さんに治療をすると良いのかという正確な治療選択に役立っています (図 2, 3)。

急性期脳梗塞では、良好な転帰を得るには可及的早期の再開通が必要であり、来院から治療開始もなるべく短時間に行う必要があります。一般的には、救急搬送後 CT もしくは MRI を施行し、適応があれば脳血管撮影室に搬送して血栓回収術を行うという流れとなりますが、当院では icono の導入により、救急搬送後直接脳血管撮影室に搬送し、そこで CT 画像、RAPID を用いた脳幹流画像を撮影し、適応があればそのまま血栓回収術に移行することで、来院から治療開始までの時間を大幅に短縮することができています。

脳動脈瘤の治療においては、大きな動脈瘤や血管全体が膨らんだ紡錘状動脈瘤の治療は、開頭術・血管内治療ともに難しい場合があります。そのような動脈瘤にフローダイバーターという非常に網目の細かいステントを母血管に留置することで動脈瘤のみを閉塞させて治療させるという治療法が、2015 年から国内に導入されています。本治療は十分な経験を積んでトレーニングを行った医師・施設のみで治療が許されており、当院の伊藤は国内導入当初からの実施医に認定されています。(現在新潟県内の実施施設は当院と新潟大学の 2 カ所に限られています。)当初は最大径 10mm 以上の限られた部位の動脈瘤に適応が限られていましたが、近年 5mm 以上の動脈瘤に適応が拡大されてきており、より多くの患者さんがその恩恵を受けられるようになってきています (図 4)。

図4



治療前: 動脈瘤を認める(↑)

治療直後: フローダイバータとコイルで治療

治療3ヶ月後: 動脈瘤は消失

もちろんどのような治療にもリスクとベネフィットがあり、複数の治療方法からの選択や治療をしないという選択枝もあります。当院では脳血管内治療学会専門医3名(うち指導医2名)を擁し、十分な説明と同意のもとに治療適応を検討しておりますので、いつでもご相談下さい(図5)。

図5



脳血管内治療チーム

地域の皆様には日頃より大変お世話になっております。この度広報誌を発行するに当たり、心機一転「地域医療連携室だより」から「Believe」へ名称を変更することに致しました。

当院は昭和7年2月末に建設され「信楽園」と名付けられました。結核患者の不幸を救済することを念願した仏教の信仰に篤い人々の寄付により建設されたこともあり、仏教にちなんだ浄土真宗の教文中にある「信楽（しんぎょう）」と云う言葉から「信楽園」と名付けられ、その後昭和43年5月「信楽園病院」と改称し今日に至っています。仏教の知識がないため理解しにくいものでありますが、この病院に療養される人々は、決して病気を悲観せず、一切の悩みを忘れて病を克服し必ず治ることを信じ、家庭に帰って一家の団欒に加わることを楽しむ。要約すると「病の治癒を信じ家に帰るのを楽しむ」と云う意味のようです。当院の名称には立派な由来と意味を持ったものであることを再認識し、「信じる」の由来を基にこの度「Believe」と名付けることに致しました。今後も地域に寄り添った広報誌の発行に努めて参ります。

今回、当院の地域活動の一つである在宅医療ネットワークの活動についてご報告させていただきます。2015年12月14日、当院と圏域である地域包括支援センター赤塚、坂井輪、五十嵐と共に在宅医療ネットワーク「にしく赤・坂ネット」を設立致しました。代表を坂井輪診療所の安達哲夫先生に務めていただき、顧問に当院田中一病院長、事務局代表を当院地域医療連携室が担っています。月1回地域の課題解決に向けた事務局会議を開催し、年3回地域の多職種と共に研修会やグループワークでの意見交換等を行う定例会を開催しています。その活動を通し、地域の在宅医療を支える目的として、緊急時スムーズに当院で入院対応できる事前登録制システム、「在宅医療バックアップシステム」を

2017年に導入致しました。当初在宅訪問診療を受けている患者さんを対象としていましたが、2018年には要介護状態で通院している患者さんであっても登録できるよう条件を緩和しました。登録状況を図1に示しました。2022年4月現在までに11の開業医さんより計150名の患者さんをご登録いただいています。図2では施設入所や病院への入院に伴う登録削除者数、死亡者数、入院者数（同患者複数回含む）を示しており、4月現在登録者数は67名になっています。登録者数に比して入院に至る患者さんは少ないと思われ、訪問診療を担う先生方が在宅の現場で、いかに個別に適切な対応をされているかが窺えます。登録者ご家族の介護負担軽減等を考慮した定期的な入院にも対応致しますのでご相談下さい。今後も病院が求められている地域からの要望を確認しながら、在宅医療バックアップシステムも時代に合わせ変化させていく必要があると考えます。登録したことにより、患者さん、介護されているご家族、更には医療を提供されている開業医の先生方や訪問看護師の皆様への安心に繋がるよう今後も検討を続けていきたいと思っております。その他にしく赤・坂ネットでは、この地域で認知症患者さんを支え合うために多職種連携チーム、認知症小委員会を設置しました。多職種で課題を共有し合い解決を目的とした検討を日々繰り返しています。このような活動を通し、当院が地域の一つとして皆様と協働できるよう、病院の窓口として地域医療連携室は努めて参りますので今後共どうぞよろしくお願い致します。

地域医療連携室 看護師長 小柳 瑞恵

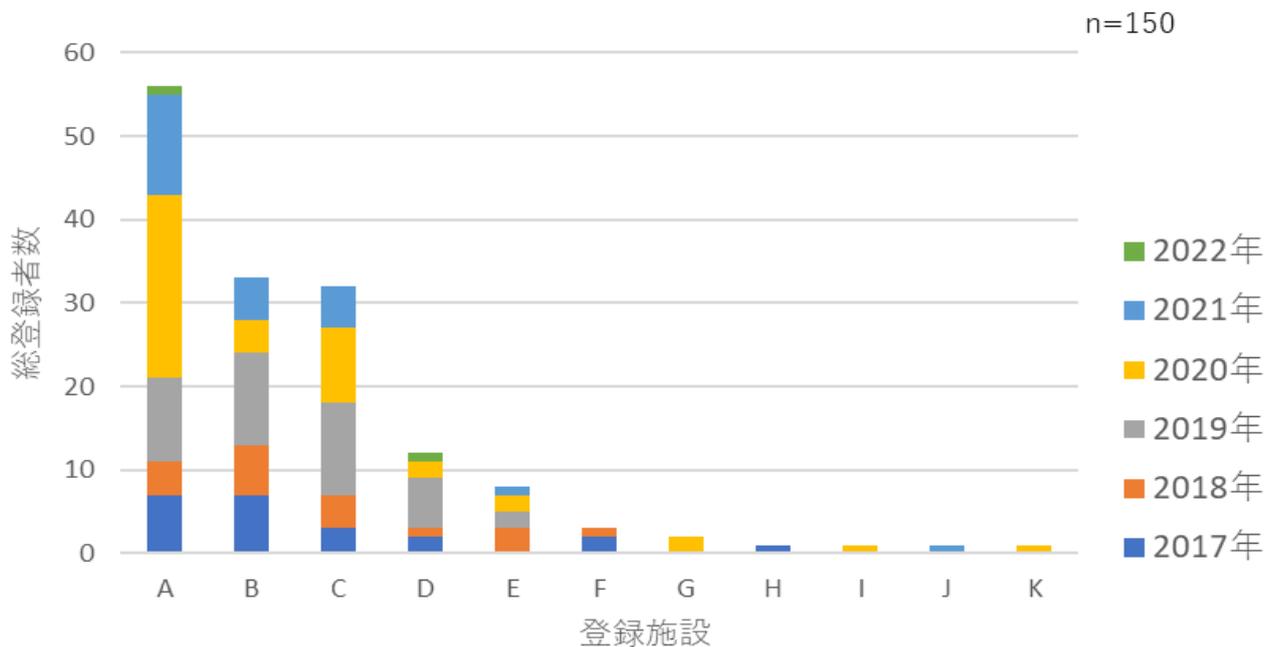


図1.在宅医療バックアップシステム登録者数

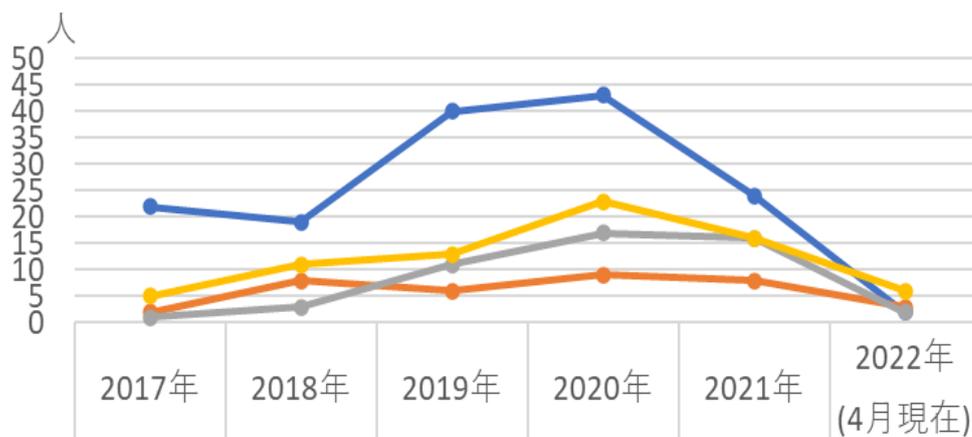


図2.登録者の経過

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年 (4月現在)
新規登録数	22	19	40	43	24	2
死亡者数	2	8	6	9	8	3
入所・他病院入院数	1	3	11	17	16	2
当院入院者数	5	11	13	23	16	6